

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を实践するための制度の理解と活用
4. 理念を实践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム やすらぎ

ユニット名 2 組

自己評価実施年月日 平成 21年 2 月 21 日

記録者氏名 山邊 美津江

記録年月日 平成 21 年 2 月 23 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>職員全員で話し合っって考えた運営理念です。また、毎年の目標を決めて取り組んでいます。</p>	<p>今後も職員全員で意見を出し合いより具体的な理念となるように取組んでいきたいと思ひます。また、毎年の目標を考え取組んで行きます。(今年の目標は「笑顔で仕事をする。出勤前後の挨拶と情報の共有化」です。)</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取組んでいる</p>	<p>名札の裏に理念を入れていつでも目にする事が出来るようにしています。毎日、理念を出勤勤務者全員でPM3:00に読み上げる事で再確認し共有出来るように取組んでいます。また、ユニット会やカンファレンスで理念に添った取り組みとなるように話し合っています。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取組んでいる</p>	<p>運営理念をホームに明示しています。ホームページや広報誌の配布、運営推進会議で地域の方家族の方に理解して頂けるように努めています。</p>	○
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩に出掛けた時等挨拶をしている。公演会等のチラシを配布し参加を呼びかけている。</p>	○
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会に入り、地域活動に参加している。不燃物の毎月の収集時の整理や敬老会での出し物への参加等、少しずつではあるが交流の機会が増えている。</p>	○

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>人材育成の貢献として積極的に実習生の受入れをしています。また、母体である病院の医師や栄養士による勉強会も開催しています。</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>職員一人一人が自己評価を行いそれを持ち寄ってユニットごとの自己評価を作成しています。評価結果はすぐに報告し改善に向けて話し合いをし、出来る事はすぐに改善するようにしています。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>運営推進会議で事業報告と今後の活動を報告し委員の方の意見を聴いています。他のグループホーム等の取り組みも情報として聴かせて頂き今後の参考にさせて頂いています。</p>		地域代表として、民生委員さんにも参加して頂く様になりました。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>市町村担当者の方に解らない事や疑問に思う事を相談し回答・助言をして頂き、解釈の難しい事も一緒に考えて頂いています。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>地域権利擁護事業や成年後見人制度について、研修会に参加し資料の配布や伝達をユニット会やカンファレンスで行っていますが職員全員が周知理解できるような勉強会までは出来ていないので勉強会をしていきたいと思っています。</p>	○	地域権利擁護事業や成年後見人制度について、きちんと勉強しユニット会やカンファレンスで職員全員が周知理解できるようにしていきたいと思っています。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>高齢者虐待防止についての研修会にも積極的に参加し各ユニットごとに担当者を置き月1回「言葉の拘束」について各自が自己評価し、検討会を開き職員全員が周知理解するように努めています。また、痣・傷記録を作り職員ひとり一人が見過ごす事のないように努めています。</p>	○	「言葉の拘束」だけでなく、利用者ひとり一人の状況を確認し合い、職員ひとり一人の「気付き」をもとに検討会や勉強会を開き職員全員が周知理解し、お互いが注意し合えるようにしていきたいと思っています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ前に必ず説明しています。利用者や家族の方が不安や疑問に思っておられる事にも、入居後起こりうるリスク、看取り、医療連携体制等についても詳しく説明しています。また、退去（解約）される際も今後の事を十分に話し合い決定しています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者さんの何気ない言葉や態度、不安に思われている事を、意見、要望、苦情と考えユニット会やカンファレンスで話し合い聞き流す事のないようにしています。	利用者及び家族の方との会話の中から、相談・意見・苦情・要望と思われる事を聞き流さない為に、「苦情記録」を「相談・意見・要望・苦情記録」に作り直し、今後のカンファレンスやユニット会で話し合いに活用していくようにしました。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の方の来訪時には、日々の様子をお話しています。また、体調不良等のあった時には電話で連絡しています。月1回のお便りに写真、行事、日々の様子を載せてお渡ししています。金銭管理は規程に同意を頂き月1回は確認して頂きサインも貰っています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱をホームの入口に設置していますが意見の入っていた事がなく活用出来ているとはいえません。運営推進会議や御家族の来訪時には意見を出しやすいように言葉掛けをしています。	○ 家族の方へのお便りに「苦情・要望等の申し出を頂くようお願いすると共に、直接は言いにくい事もあると考え、「福祉サービス困り事解決委員会」のチラシを同封し相談しやすい状態を作っています。年二回の「満足度アンケート」は計画通りに実行していきます。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会やカンファレンス、個別に意見を聴く機会を設けています。問題点があれば話し合い、工夫する事や業務の見直し等で反映させている。	○ 話し合う機会を増やし意見や提案を出し易い環境を作る事が必要と考えられる。（会議での意見はなく、噂話のような状態で耳にする事が多い為）
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者は通常のシフトに入っておらず、入居者の状況に応じて臨機応変に対応しています。ホームの行事や外出においても出勤人数を多くしたり、時間の調整をしています。また、体調不良等での欠勤にも勤務の調整に努めています。	○ 職員間のコミュニケーションをより良い物にしていく為に話し易い交流の場を設けていく。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2ユニットを1人の夜勤者が見ている為、利用者さんに職員全員を知って頂く事を重要と考えユニットごとの行き来はしています。また、離職者が出た場合は、残った職員でフォローし利用者へのダメージの無いようにしています。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	母体の法人での研修会や事業所外で行われている研修会に積極的に参加し、後日、全職員に研修報告しています。また、カンファレンスで意見交換をしています。		経験の長い職員からの意見を聴く事で経験の少ない職員の視野が広がっていくように努めています。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	関係法人のグループホームとの学習会や報告会に参加し、意見やアイデアの交換をしています。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休憩時間を確保し、利用者と離れて一息入れる事の出来る場所を確保しています。	○	職員同士のコミュニケーションをとる為の企画を立て、ストレス軽減の話し合いの場を作って行きたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に2回の職能評価を行っています。また、職員の資格取得や知識・実技向上に向けた講習にも積極的に参加出来るように働きかけています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に本人と会い、生活状態や心身の状況を把握し、求めていることや不安を理解しようと努めています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前に御家族の方と会う機会を設け、生活状態や心身の状況を把握し、御家族の求めていることや不安を理解しようと努めています。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、利用可能なサービスや介護保険等について助言しています。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人納得された上での入居は難しく、家族との話し合いで出来るだけ不安を取り除き、職員や他の利用者とも徐々に馴染める様にご本人のペースで入居された事を納得して頂けるようにしています。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者さんの出来る事は自分でして頂きながら一緒に過ごす中で学ぶ事があります。また、会話の中で支えあう関係を築いています。	○ 入居者さんとゆっくり話す機会を多く持ち、不安や楽しみ等を共有できるように努めていきたいと思えます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者さんの日々の暮らしや状況を面会時やお便りでお知らせし、利用者さんを一緒に支える為に御家族の方と同じような思いで支援するための昔のエピソード等聴かせて頂き、家族の思いに寄り添えるようにしている。		面会時にはお茶やコーヒー等を、お出しし利用者さん、ご家族と一緒に同じ時間を過ぎて頂き、日々のエピソード等共有する事で協力して頂いています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人、家族それぞれの思いや状況を考えながら外出、外泊を勧めたり行事（遠足・お花見等）の際は事前に連絡し一緒に参加して頂けるように考えて頂いています。また、面会時にお茶を出す事で少しでも長い時間を御家族と過ごして頂けるように働きかけています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの知人や友人から電話がかかってくる、会いに来て下さったりしています。また、行事の際には事前に友人に連絡をして頂き都合の合う時は一緒に参加して頂いています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さんのお互いに共通する話題を提案し関わりが持てるように努めています。また、トラブルには仲裁に入り関係修復に努め、トラブルを未然に防ぐように心掛けています。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了されても、退居先を訪問したり、ご家族の方にも遊びに来て頂けるように言葉掛けをしています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の声に耳を傾け、思いや希望の把握に努めています。(喫茶店・銀行・本屋・スーパー・100円ショップ等)また、職員間で意見交換し、意向や意見の把握に努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員が馴染みの関係を作り、ご本人やご家族の方から生活歴や暮らしぶりを少しずつ聴いて把握に努めています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の暮らしの中で、ひとり一人の過ごし方や出来る事の把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者や家族の方には日頃のかかわりの中で少しずつ要望や思いを聴き反映するように努めています。また、ユニット会で職員全員が意見を出し合い介護計画を作成しています。	○	家族の方の意見や要望をもっと取り入れて行きたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員同士が情報を共有し入居者さんの変化に気を付け対応しています。3ヶ月ごとの介護計画の評価・見直しだけでなく、変化のあった入居者さんは期間途中の見直しもしています。特に、退院時は、主治医・家族も交えた担当者会を開催し、ホームでの退院後の介護計画も職員と話し合い作成しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量・水分量・バイタル・入浴・排泄・睡眠については個別の表にしています。日々の暮らしやエピソード、体調の変化等記録しています。勤務開始前には必ず申し送りを確認しています。また、カンファレンスでユニット間の情報も共有しています。	○	ケアプランに添った充実した記録、日常の変化や気づきを記録に残し、今後のホームでの生活及びケアプランに繋がるようにしていきたい。ただし、記録に時間を取られない様な工夫が必要だと思う為、今後も検討していく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携を活かして、利用者さんの負担とならないようなホームでの生活の継続や重度化した場合の対応等、必要に応じてご家族、ご本人と話し合い支援しています。また、空室を利用した短期利用型（ショートステイ）も行っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	警察や消防の協力は得ているが、教育関連との連携は計画だけで終わっている。ボランティアの方の協力で公演会を開催し、地域の方や民生委員さんへの参加の呼びかけもしています。	○	地域の学校等との連携を計画だけでなく進めていきたいと思っています。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者ご本人の希望や体調に応じて、訪問理美容を利用しています。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターの職員の方に、運営推進会議へ参加して頂いており、情報の交換や支援に関する事など教えて頂いています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>これまでの暮らしが損なわれないように、生活環境や支援の内容、注意の必要な事や言葉掛けの仕方等きめ細かい連携を心掛けています。</p>	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>必ずノックやご本人に了解を得てからの入室、誘導の際の言葉掛けは必ずご本人の側でを基本とし、職員ひとり一人が気をつけ注意し合っています。また、記録等は他者の目に触れないように配慮し、利用者さんのプライバシーに関わる事は話さない事を徹底しています。</p>	<p>毎月行う「言葉の拘束」の自己評価と検討会で「個人情報」についても再確認し合い、職員ひとり一人が意識向上を図っています。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>職員が決めた事をやらせるのではなく、入居者ひとり一人の出来る事への支援、複数の選択肢の準備をし、自分で決められる場面を提供するように努めています。</p>	<p>○</p> <p>職員ひとり一人ができているとおもいますが、より選択場面を増やし、職員の質の向上を図っていきたいと思います。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>基本的な1日の流れはありますが、起床、入浴、食事の時間、就寝、外出等ひとり一人の思いに出来る限り対応しています。外出は希望に合わせて車椅子や車を利用しています。</p>	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>個々の生活習慣に合わせた支援をしています。行事や外出の際には、化粧やお洒落を楽しんで頂ける様に取り組んでいます。</p>	<p>○</p> <p>利用者さんの希望はあるがご家族の協力が難しい。今後はご家族の方の協力が得られるように話し合っていきたい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	入居者さんの排泄パターンをもっと細かい把握に努め、失敗の無い排泄の支援と布パンツ使用に取り組んでいきたい。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	ゆっくりと入浴出来るように支援していきたい。また、職員同士の連携で柔軟に対応出来るようにしていきたい。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	入居者さんひとり一人に、余裕を持った対応が出来るように支援していきたいと思います。


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者と家族の話し合いにより、無くなっても良い程度の金額のお金は希望者のみ持っておられます。また、御家族の希望により事業所がお預かりしているお金はご本人が必要な時に使えるように支援しています。残金の確認とサインも頂いています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や近くの喫茶店、スーパー等、ご本人が希望される時に出掛けられるように支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	初詣、花見、ドライブ等と普段行けない所への外出はしています。また、ご家族の方と共に買い物や食事等に出掛けられるように支援しています。	○	遠くへの外出は、ご家族の方に協力して頂き出来る限りの支援をしていきたいと思えます。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙やはがきのポストへの投函、電話の取り次ぎや年賀状の支援も行っています。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	職員は来訪者に対して必ず笑顔で挨拶し、ゆっくり過ごして頂く為にお茶やコーヒーを、お出ししています。訪問時間等は決めておらずいつでも訪問して頂くように話しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアの研修会に参加しています。職員全員が正しく理解出来るように研修報告し防止に取り組んでいます。各ユニットごとに担当を決め月1回の「言葉の拘束」について各自が自己評価しカンファレンスで検討会を行っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>夜間のみ玄関に鍵を掛けていますが、日中は鍵を掛けず、外出しそうな様子を察したらさり気ない言葉掛けをしたり、目標なく外出された方には偶然を装いついて行きます。</p>	
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>日中フロアを担当する職員を一人置き、一人の職員だけの時間は業務は中止しフロアで入居者さんと一緒に過ごすようにしています。また、夜間は2時間おきの巡視と転倒の危険性のある入居者の足音でキャッチし見守り、誘導しています。</p>	
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>入居者の現在の状態を見極め、職員が見守り出来る日中は洗剤など入居者さんの使える場所に置いています。夜間は見守りができない為、棚の中に保管しています。</p>	
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故やインシデントに関する報告、記録を個別に整理し、必ず職員で事故検討会、事故防止対策を検討しています。また、母体の医療安全委員会では他職種の方々の意見を聴き、今後の対応策を色々な角度から検討し事故防止に取り組んでいます。</p>	
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>医療連携している医療機関や外部の勉強会にて研修を受けています。また、緊急時のマニュアルもありすぐに対応出来るようにしています。</p>	<p>○</p> <p>職員ひとり一人が、迅速な対応が取れるように一つひとつの応急手当について、看護師や医師に勉強会を開いて頂き定期的な訓練をしていきます。</p>
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年に2回避難訓練を行っています。非常時用の食糧の備蓄もしています。</p>	<p>○</p> <p>災害時の為に、地域の方々と一緒に避難訓練や対策を立てていける様に少しづつですが働きかけています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時や面会時及び介護計画作成時や退院時等に今後起こり得るリスクについて説明し対策を話し合っています。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	入居者さんの普段の状況を把握しており些細な事でも管理者に報告し、状況に合わせて担当看護師に報告・相談し指示を仰いでいる。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	現在服用されている薬の説明書をファイルし、職員全員が理解している。薬の確認、服薬は必ず二人の職員で確認し個人の名前のあるBOXに入れチェック表にサインしています。服薬時も必ず二人で確認し、服薬終了後は飲み忘れがないかをチェックしています。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	にがりや食物繊維のファイバー、適度な運動の機会を設けています。排便のチェックは毎日行い、便秘や下痢にならないように確認、調製しています。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・夕の歯磨きは支援しているも、日中の支援が徹底されていない。個々の口腔状態は、訪問診療して下さる医師に相談にのって頂いています。	○	口腔ケアの研修に参加し大切さを実感したので、今後は研修内容について勉強会を行い口腔ケアを徹底するように職員全員で話し合っていきたいと思っています。また、今後も研修に参加するように計画しています。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が立てています。水分量の決まっている方は出来るだけ不満に思わず守れるように、食事や水分の形態もその人に合った物を提供出来るようにしています。水分の摂れない人にはお茶ゼリー等で対応しています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する予防や対策については研修や委員会での勉強会等への参加をしています。感染症マニュアルを作成しノロウイルス予防チェックリストも毎日活用しています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や布巾等は、毎晩漂白し清潔にしています。食材は毎日新しい物を使用しています。その日の食材は使い切り、残った物は処分します。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入口に手作りの案内板を掲示しています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	五感や季節感を意識的に取り入れた飾りやイベントを企画し、一緒に楽しむ事で一緒に生活している事を意識していただくように努めています。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置き自由に過ごせる場所を作っています。また、ベランダに花やパラソル、テーブルを置いてゆったりと自然の空気に触れられる場所も作っています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている</p>	<p>以前使っておられたタンスや椅子、テーブルを持 ち込んで頂いたり、写真立てや壁に好みの写真等 貼る事でご本人の居心地の良い空間を作っていま す。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている</p>	<p>午前・午後に換気をする事と、エアコンの温度を 調節し暑過ぎたり、寒過ぎたりする事のないよ うにしています。また、加湿器や空気清浄機も利用 しています。</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している</p>	<p>浴室・トイレ・廊下等に手摺りを設置し安全に生 活して頂けるようにしています。また、椅子や テーブルのネジの締まり具合も確認し緩みはすぐ に修理しています。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している</p>	<p>居室の表札やトイレなど、入居者さんが間違える 事のないようにさり気なく目印を置いています。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている</p>	<p>ベランダで気の合った者同士が食事や会話、 ティータイムを楽しめるように、パラソルやテー ブルを置き活用しています。</p>		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

医療連携により、利用者一人一人の健康管理・日常生活の中で注意して行く事を職員全員が周知し、利用者及びご家族に安心して生活して頂いている。不安・不穏を感じている方が見られた時は、その人の立場になって考え安心して生活して頂けるように職員全員で意見交換をし対策を考えている。